

(様式第1号)

研究No (記載不要)	16 - デ - 1
----------------	------------

平成16年度配分 研究成果の概要

研究名	公共交通の役割を担うタクシーの再考とデザイン提案				
配分を受けた特別研究費	デザイン学部長 特別研究費 25,000千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン	生産造形	教授	河村暢夫	市場調査、アンケートの実施、資料、文献の解析、構想の展開：イメージスケッチ、製図、完成予想図（レンダリング）、模型制作 1/5、模型制作 1/1
共同研究者	デザイン	生産造形	教授	河原林桂一郎	交通システム計画、環境エネルギー、蓄電池と基盤整備、運用システム、
	デザイン	生産造形	助教授	佐井 国夫	サイン、色彩計画
	デザイン	生産造形	助教授	迫 秀樹	市場調査：アンケートの実施；資料文献の解析：全体マネジメント
	デザイン	実習指導員室	実習指導員	櫻井 龍	製図、完成予想図（レンダリング）模型制作 1/5；模型制作 1/1
	デザイン	実習指導員室	実習指導員	成田 晋	製図、完成予想図（レンダリング）模型制作 1/5；模型制作 1/1
	外部	フリーデザイナー	自営	高山 靖子	市場調査：アンケートの実施；資料文献の解析：全体マネジメント
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第6号 (2005年発行)	
	2 学会等での発表 学会等名：		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法：展覧会形式 静岡文化芸術大学／西ギャラリー		発表日 (発表 予定日)	平成17年6月27日 から7月3日まで	

注：配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

タクシーの歴史は、電車やバスのような大量輸送手段ではなく、戸口から戸口へのきめ細かい輸送手段であることは今さら説明するまでもなく、自動車の普及とともに、その利便性が評価されて、各国で重要な交通手段となってきた。

社会の要請として、都市、オフィス、住宅、交通等々、人間の関わる総ての場面でバリアーを取り除き、障害者を含む老若男女が等しく快適な社会生活を享受できる環境を目指すユニバーサルデザインが望まれる昨今、寝台から車椅子、食事の配送等のサービスを提供する福祉タクシー、情報網を巧みに利用する情報提供ツールとしてのタクシー等々、新たな需要が増してきている。

しかし、量産車をベースとしたタクシーは、昼夜の視認性、料金授受、安全性、運転手の労働環境、料金面、乗客と運転者の関係等、様々な問題点を抱えたままになっている。

これらを踏まえた上で、公共の足としてのタクシーに焦点を当て、合理的な新提案を試みた。

(研究の実施方法等)

2003年度は、主にタクシーの車体に関する調査とともに、運転者や乗客の意見やタクシーの実情等を調査し、それらをベースとして基本コンセプトを立案。アイデアスケッチを展開した。

2004年度は、前年度のコンセプトスケッチをもとに、3Dデータと1/5モデルを制作し、現実的な形状の確認を遂行した。

それと同時に、社会環境からのアプローチを試み、タクシーに関わる運用面やサービスの具体的な検討・提案を行った。

(得られた成果等)

本研究において実施した調査等により、当初予測していたタクシーの形態的な需要に限らず、情報社会の中での新たなタクシーの役割等が浮き彫りになり、単なる交通手段にとどまらない新たなタクシーの発展性が見えてきた。

また、研究の遂行にあたり、多くの学生の協力を得ることにより、研究の成果を充実したものにだけでなく、学生達に現場の仕事を体感してもらう良いチャンスを与えることができた。

また、本学ギャラリーにて研究成果を発表することにより、学内に限らず、新聞、雑誌(カースタイリング掲載予定)等のメディアに本研究に加えて、本学の魅力を発信するという二次的な効果を得られたことは、予想外の効果であった。